

絵本を紹介します

児童館2階遊戯室には、地域の子育て支援拠点となっている、わいわいひろばがあります。
わいわいひろばには、0歳の赤ちゃんの絵本から、保護者におすすめの大人の絵本まで約400冊あります。
その中から、今だから読んでほしい絵本を紹介します。

「あさになったので まどをあけますよ」 著者 荒井良二

いろいろな場所に住む子どもたちが、朝になると窓を開けます。
そこには、美しい川や山、ビルなどがカラフルに自由に描かれています。
この絵本は、2011年12月、東日本大震災の後に刊行されています。
新型コロナウイルス感染症の影響で、日常が奪われた日々が続きました。
学校にも行けない、友達とも会えない。家の中で過ごし、人に会うことを制限され、なにげない日常の大切さを実感した人も多かったのではないのでしょうか。

この絵本の景色には、すべて明るい朝の日差しが降り注いでいます。
とてもすがすがしく、新しい1日の始まりを感じます。

高富児童館では、絵本の貸し出しを行っています。
1家族5冊まで。貸出期間は4週間、ゆっくり楽しめます。



地域包括支援センターだより

閩南部地域包括支援センター
Tel.22-6886

今年は例年以上に熱中症に気をつけましょう！

▶マスクの着用

体内に熱がこもりやすく、口の渇きに気がつきにくく、知らないうちに脱水が進んでしまいます。
マスクを外してはいけないと思い、水分補給を避けることも脱水の一因です。

▶外出自粛の生活

体を動かさず汗をかかないため、体の機能が暑さに慣れ、汗をかいて体温を下げるなどの対処ができにくい体になっています。

▶熱中症の症状とコロナ感染の症状は似ている

熱中症は体がベタついたり、だるく感じたり、頭がふらつく、発熱、頭痛などの症状が現れます。
これらは新型コロナウイルス感染症の軽度の症状によく似ており、見分けるのが難しいです。

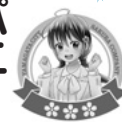
だからこそ、熱中症になる環境・生活を避けることが大切です。

熱中症予防のポイント



1. 3食きちんと食べましょう。
2. 喉が渇いたと感じ始めたら水分摂取をしましょう。
3. クーラーをすぐつけられるよう調整しておき、暑いと感じる環境をなくしましょう。
4. 換気をこまめにし、湿度も高くないように注意しましょう。
5. 快適な環境でよく睡眠をとりましょう。
6. 人混みを避けた散歩や室内での軽い運動を行いましょう。

— 連載 —
 きらりと輝く！
さくらカンパニー



市では、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進に積極的な事業所を山県市さくらカンパニーとして認定しています。連載では、認定企業の取り組みを紹介していきます。
 企画画財政課 Tel.22・6825

1
**さくらステップ3
 岐阜アグリフーズ(株)**

❀ここがさくらカンパニー！

・ノー残業デーやリフレッシュ休暇の推進を社員に周知するだけでなく、達成状況表を作成し管理することで、休暇を取得しやすい環境が整備されている。

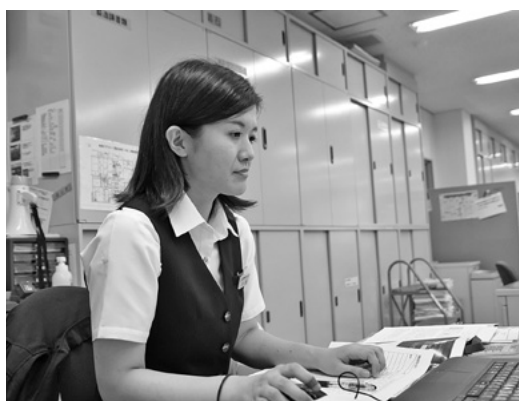
・女性社員に末永く活躍してもらえるよう、育休・産休復帰支援面談シートを活用し、休業中のフォローをしている。

・毎年女性活躍やハラスメント防止などをテーマとした社員向け研修会を実施している。

❀わが社のさくら

生まれ育った山県に恩返しをしたい。そんな思いで仕事をしている木田さんに話を聞きました。

私が働く岐阜アグリフーズ(株)では、時間外労働の削減や有給休暇の取得日数について、しっかりと会社



製造部 木田 美乃里さん

全体で管理されていて、自分の予定に合わせて計画的に休みを取ることが出来ます。普段から、同じ部署の人とお互いの仕事内容を共有することで、自分が休みを取るときには、他の人がカバーできる態勢が整っていることも、有給休暇が取りやすい一因だと思います。

計画的に休暇を取ること、プライベートも充実し、仕事にもメリハリがついて、また頑張ろうって思えるんです。

— 連載 —
**山県市の
 祭りと
 民俗芸能**

市内には、先人が築き、大切に守ってきた伝統的な祭りや民俗芸能などの無形民俗文化財が多数継承されています。こうした地域の宝である民俗芸能や行事について、「岐阜県山県市無形民俗文化財調査報告書」から紹介します。
 関生涯学習課文化財調査室 Tel.32・9008

20
 谷合の火とぼし山
 (美山地域 谷合)

■実施日 8月15日

■実施場所 谷合公民館→県道200号神崎高富線→火とぼし山

■実施主体 谷合地区の自治会(消防団に依頼して実施)



谷合の火とぼし山の松明(復元)

【行事の次第】

午後6時、消防団は谷合公民館を出発し、道中、爆竹やホイッスルを鳴らしながら進み、前橋の南のバス回転場でロケット花火などを打ち上げます。その後、200メートルほど南下した火とぼし山の登山口から、山上を目指して登ります。山上では、消防団が小祠に御神酒を供え、蠟燭を立て防火と安全を祈願します。その後、谷合花火同好会が約60発の花火を次々と打ち上げていきます。打ち上げ終了後、消防団が花火の燃え残りを消火し、全員で下山し行事は終了します。

【行事の由来・変遷】

昔疫病がはやった時に、病魔を追いつぶために実施するようになったといわれています。以前は青年団が行事の主体でしたが、昭和51年頃から消防団が担うようになりました。ルートは現在と同じですが、かつては太鼓と鉦に先導され行列行進し、山上で小祠に御神酒を供え、蠟燭を灯して全員で参拝した後、約二間の竹竿の先に、麦わらの束を縄で縛った松明をつけ、次々と火をつけながら、団員が山の上・中・下段で八の字を描くように振り回していました。

市無形民俗文化財調査報告書は、市内の小中学校、図書館、中央公民館、地区公民館に備えてあります。